

6月定例活動

トンボ池周辺整備



大きく掲載されたこともあり、なんと競争率20倍の難関を越えてめでたく参加できた7家族23名とともに、総勢40名以上での活動となりました。



▲池周辺の草刈りをする参加者たち

の時間なのにギンヤンマのヤゴがほかのヤゴを食べ始めており、その多さの理由が理解できました。特筆すべきは、水辺からヒメタイコウチが見つかったこと。トンボ池を作ってからほぼ10年がたち、トノサマガエルの復活に加え、自然がどんどん回復してきている様子を目にしてうれしくなります。

ヤゴの観察の次は、ジャガイモの収穫体験です。収穫したジャガイモは、昼に竹炭でホイル焼きにして「じゃがバター」でいただきました。

暑い日の作業でお疲れ気味だったので、少し長めの昼休みをとり、午後は山根口近くの竹林整備です。1時間半ほどの作業で、林の中は見違えるほどきれいになりました。(大館)

6月の定番であるトンボ池周辺整備は、ここ数年「春の環境デーなごや」の行事に協賛して、活動を続けています。今年は広報なごやの募集記事が2面で

池周辺の草刈りを終えた後、ヤゴの観察会では、アカトンボ系、シオカラ系に加え、今年はギンヤンマのヤゴがととも目立ちました。トレーに採集したヤゴを観察していると、ほんの少し

トライアルサタデー第2回

当日(6月13日)は、相生山口に子ども17人、大人23人が集まりました。

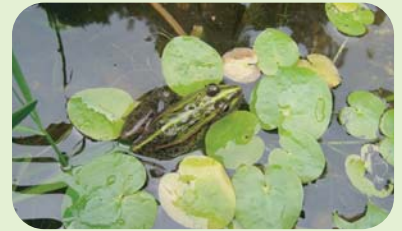
相生山からトンボ池まで、昆虫観察をしながら移動しました。途中ではアゲハチョウやカメムシの仲間などを見つけました。

トンボ池では、皆でまず周囲の草刈をしました。草刈ではバッタの仲間などが飛び出してきましたし、頭の上で

はヤンマの仲間が飛んでいました。

続いて、タモ網等を使って池の中の生き物を調査しました。アキアカネ、シオカラトンボ、ギンヤンマ等のヤゴのほか、ゲンゴロウの仲間、マツモムシの成虫も多数いました。そしてトノサマガエルのみ♀を2匹確認しました。一方昨年確認されたオオクチバスは、今年いませんでしたので一安心しました。

多くの生き物の生息の場となっているトンボ池をこれからも見守っていきましょう。(阿部)



シリーズ『森の住人たち』⑳



クロコノマチョウ(秋型)

～クロコノマチョウ～

細い道を通り抜けようとしたときである。突然、茂みから飛び出すものがあつた。その動きを目で追うと、再び茂みに戻つた。

ゆっくり身をかがめる。翅を二つ折りにして静止しているのは、クロコノマチョウだ。茶褐色の翅のふちには、大小の目玉模様が並んでいる。

姿全体を写すためにモニターで角度を確認している時だ。

「あっ」

思わず声をあげた。葉裏に鮮やかな緑色のさなぎ。それもひとつではない。ふたつ、みつつ…。

すでに羽化したあとのクリーム色のさなぎもいくつかある。すると今ここにいるチョウも羽化して間もないのかもしれない。眼前のさなぎの羽化も近々なのだろう。この場はクロコノマチョウにとって、いわば「命のゆりかご」。そっとしておこう。

チョウといえば、一般的に明るい太陽の

クロコノマチョウ(黒木間蝶) ジャノメチョウ科
前翅長 32~45mm 出現期 6~11月
分布 本州(千葉県以西の沿岸地域)、四国、九州
食餌 幼虫:イネ科のススキ、ジュズダマなどの葉
成虫:腐った果実、樹液、獣糞

もと、開けた草地での吸蜜などを思い浮かべるが、クロコノマチョウの好みではないらしい。黒っぽい翅の色で林内やその周辺の薄暗い所を好むことから、黒い色で木の間を舞うチョウということで名づけられたようだ。昆虫でありながら外観上の脚は2対である。

風が透き通ってくると、秋も本番を迎える。クロコノマチョウを観察するにはいい季節となる。ことに林縁を歩くときは気をつけよう。地表の色や落ち葉に同化してあなたを待ちうけているかもしれない。

(文責 自然案内人 近藤 記子)